



2025 年 11 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社 サックスバーホールディングス
代表者名 代表取締役社長執行役員 木山 剛史
(コード番号 9990 東証プライム)
問合せ先 取締役専務執行役員 山田 陽
TEL 03-3654-5315

2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異
及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2025 年 5 月 12 日に公表いたしました 2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）の業績予想値と本日発表の実績値との差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2026 年 3 月期(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異について
(2025 年 4 月 1 日～2025 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰 属 す る 中 間 純 利 益	1 株 当 た り 中 間 純 利 益
前回発表予想 (A) (2025 年 5 月 12 日発表)	百万円 25,925	百万円 1,991	百万円 2,025	百万円 1,286	円 銭 44.27
実績値 (B)	24,531	1,368	1,418	860	29.63
増減額 (B－A)	△1,394	△623	△606	△425	－
増減率 (%)	△5.4	△31.3	△30.0	△33.1	－
(ご参考) 前年同期実績 (2025 年 3 月期第 2 四半期)	25,514	1,911	1,949	1,231	42.40

差異の理由

2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）においては、円安、原材料価格やエネルギー価格の高騰等による物価上昇が賃金の伸びを上回り、消費者の生活防衛意識がますます高まり、食料品を始めとする生活必需品への支出が優先され、ファッショングッズに対する支出にはかなり慎重さが増しているものと思われます。また、売上を押し上げてきたインバウンド需要も伸びを欠きました。

このような状況下で、売上高は予想を5.4%下回り、前年同期実績に対しても3.9%減となりました。さらに、売上総利益率が想定を0.2ポイント下回り、売上高の減少に伴い、販売

費及び一般管理費率が想定を1.9ポイント上回ったため、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益がそれぞれ想定を下回りました。

2. 2026年3月期の通期連結業績予想の修正について

(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (2025年5月12日発表)	百万円 53,455	百万円 4,153	百万円 4,219	百万円 2,658	円 銭 91.50
今回修正予想(B)	50,649	2,906	2,973	1,843	63.45
増減額(B-A)	△2,805	△1,246	△1,245	△815	—
増減率(%)	△5.2	△30.0	△29.5	△30.7	—
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期通期)	52,289	4,044	4,130	2,545	87.59

修正の理由

2026年3月期第2四半期(中間期)の業績を踏まえて、2026年3月期の通期連結業績予想の見直しを行っております。

第3四半期連結会計期間、第4四半期連結会計期間においては商品構成の見直し等による売上の回復、諸経費の削減、抑制に努めるものの、消費マインドの急激な回復は見込めず、前回予想に対して売上高は5.2%の減少を見込み、それに伴い、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益についても減少を見込んでおります。

※ 上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上